

## IAAL

Institute for Assistance of Academic Libraries

## ニュースレター

アイアールニュースレター

【特集】

ラーニング・コモンズ

OCT. 2013

No.13



## ラーニング・コモンズの必然性

東北大学附属図書館 米澤 誠

近年、中央教育審議会などでは「能動的学修（アクティブラーニング）への転換」が提唱されているが、まだ多くの大学図書館関係者にとって、この言葉はなじみがうすいのではないだろうか。

従来型の大学図書館における学習者の姿を思い描くと、教科書や参考書をひらいて暗記する、もしくは独りもくもくと読書をするといったところであろう。これは、教師というよき教え手が、もともと受動的な学び手に対してより多くの知識を伝達するという、伝統的学習観の延長線上にある固定観念といえる。学生という学び手は、多くの知識を定着・拡張させるため、図書館で独り静かに学習するのである。もちろんこのような学習環境は、これからも維持する必要がある。

これに対して新しい学習観は、本来的に学び手は能動的で有能であり、学び手同士がやり取りをする中で創造的に知識を構成するというものとなっている。具体的なイメージとしては、総合的学習のようにグループに対してある課題を与え、その課題を解決する中で知識や経験を身につけるというものである。この新しい学習観にもとづいた教育は、すでに大学でもPBL (Problem-based learning) のような形で実践されてきているし、実はそもそも文系ではゼミ演習という形で実績のあるもののなのである。アクティブラーニングとは、まさにこの能動的で学生同士の協調的な学習の

ことを言い換えただけのものであり、概念としては特段目新しいものではなからう。

しかし、現在においてこのアクティブラーニングの重要なところは、大学生の社会的能力を高める機能を果たすということだと考えている。企業などが採用時に期待する、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、対人・社会連携力などを育てるには、伝統的学習観にもとづいた大学の受動的な科目では不十分なのである。従来、そのような社会的能力を高めていたのは、サークルなどの課外活動やアルバイトの経験であったのであろうが、これからは大学の正規科目の中で、適切に指導することが必要となっていくであろう。そして、このアクティブラーニングを自主的に行うことができる学習環境、いわゆるラーニング・コモンズが、必然的に大学に求められてくるのである。

一方、このアクティブラーニングを行う学習者を、大学図書館の中に取り込もうとすると、はたと困ってしまう。グループ学習室をもつところも多いであろうが、全体として従来型の大学図書館は静かな学習者向けであり、アクティブな学習者の活動には向いていないからである。ここで重要なのは、この新しい学習観にもとづいた学習の場を「大学のどこか」に用意することなのである。必ずしも大学図書館の中に、ラーニング・コモンズを持つ必要はないと考えている。

# ラーニング・コモンズの 最前線

東北大学附属図書館 米澤 誠

まず始めに、近年注目されているラーニング・コモンズの先端事例を、東西1か所ずつ紹介したい。

## 【1】

### 千葉大学アカデミック・リンク

千葉大学のアカデミック・リンクは、従来の附属図書館本館に対して、新たにラーニング・コモンズ機能をもったエリアを付加したものである。アクティブラーニングのためのエリアである4階建てのN棟は、旧館の南側に増築した建物であり、ここだけで合計床面積が約4千㎡、閲覧座席が約7百という国内最大のラーニング・コモンズとなっている。

これに加えて東側に新築したI棟は、教材作成のためのコンテンツ・ラボや、ワークショップ授業のためのセミナー室、ティーチング・コモンズなどを備えている。そしてこれらの施設・設備とそれを活用するスタッフを配置し、教育支援機能を強化している点において、このアカデミック・リンクは従来型の図書館と大きく異なるのである。

アカデミック・リンクは、図書館組織に加えてネットワーク基盤を提供する総合メディア基盤センター、そして教養教育の企画運営を担当する普遍教育センターの3者が基礎となって運営されている。図書館単独ではなく、図書館・情報ネットワーク・教育実施組織が組み合わさって、学生の学びを支援するラーニング・コモンズを運用しているところが、千葉大学の最大の強みなのである。



千葉大学のグループワークエリア

## 【2】

### 同志社大学ラーニング・コモンズ

同志社大学のラーニング・コモンズは、今出川キャンパス図書館とは別棟となる新築の教室棟「良心館」の2～3階に設置された。2フロアの合計床面積は約2千5百㎡であり、これも国内有数規模のラーニング・コモンズとなっている。

2階は「学びの交流と相互啓発」をコンセプトとしており、プレゼンテーションコート、ボックス席のインフォダイナー、グループワークエリア、多文化交流のためのグローバルビレッジなどを配置している。そして3階は「アカデミックスキルの育成空間」をコンセプトに、アカデミックサポートエリア、マルチメディアラウンジ、ワークショップルーム、グループスタディールーム、プリントステーションを配置している。



同志社大学のアカデミックサポートエリア

2つのフロアのいたるところに、学習支援のための多彩なスタッフを配置しているのが、このラーニング・コモンズの大きな特色である。学び方を教えるアカデミック・インストラクター、ライティング・インストラクター、学習支援コーディネーター、情報探索アシスタント、留学コーディネーター、ICTサポートスタッフ、プリントステーションスタッフなどが、学生の学びを支えている。これらのスタッフを統括するのは、新たに組織化した学習支援・教育セ

ンターであり、図書館は連携こそすれラーニング・コモنزの運営には係わっていない。

この運営方針は、同志社大学がラーニング・コモنزを、学生が授業外で学ぶ場としてだけでなく、「学び方を学ぶ」ための教育の場として明確に位置づけたことから帰結している。適切な教育を行うためには、高等教育・教育方法に関する適切な知見が必要であり、それには従来の図書館員の力量だけでは不十分なのである。

### 【3】

## 図書館から飛び出す ラーニング・コモنز

わが国の場合、幸か不幸か大学図書館の中にラーニング・コモنزを設置する事例が先行し、大学図書館界を中心として普及してきた。しかしながらラーニング・コモنزの本質は、単にアクティブラーニングができる場であるにとどまらず、「(アクティブラーニングを含めた) 学び方を教える」もしくは「アクティブラーニングを誘発する」場であると考えている。であるとするならば、それは図書館の中にある必然性はなく、大学内のどこにあってもよいことになる。むしろ大学図書館の中に拘束されることが、「学び方を教える」という面での制限や限界を作ることになりはしないか危惧している。

大学によっては同志社大学のように、図書館とは別の建物に設置するという選択肢も当然あるであろう。それは、各大学の教育環境のコンテキスト(状況)の中で判断されるものなのである。例えば、本号に記事を掲載した前橋国際大学のように比較的中小規模のキャンパスでは、従来型の静寂な図書館はそのままにして、新たにラーニング・コモنزを設置することが有効である。また、大正大学の場合も同様であり、図書館とは別棟のフロアにラーニング・コモنزを設置し、図書館とは別の部署が運営して成



大正大学のラーニング・コモنز

果を上げていることから明らかである。

これからは多くの大学で、図書館から飛び出したラーニング・コモنزが出現するであろう。そのときでも大学図書館は、飛び出したラーニング・コモنزに対しては、最大限の学習支援を行わなければならないのである。

### 【4】

## 大学教育の中に位置づけられた ラーニング・コモنز

くり返すが、ラーニング・コモنزを設置する場合、その大学のコンテキストをよくよく考えることが重要である。キャンパス内外の学習環境・生活環境、正規科目で行われている授業内容、課外活動支援やキャリア支援の状況、大学内組織の連携状況など、総合的に把握した上で、実現可能で適切なラーニング・コモنزの施設・設備、サービス内容を設計する必要がある。そのためには、図書館組織だけではなく、大学全体の事務組織や教員組織と連携・協力して検討しなくてはならない。

先に紹介した千葉大学や同志社大学は、そのような連携・協力のグッドプラクティスであると考えている。両大学を見学したとき、その規模や設備・什器の見事に目を奪われがちであるが、本当に見習うべきは「学び方を教える」もしくは「アクティブラーニングを誘発する」場として、適切に実現されている点なのである。そしてその実現のために、大学内の各部署が適切に連携・協力してきたというところなのである。



アクティブラーニングを誘発する場  
(東北大学)

私たち大学図書館員は、ラーニング・コモنزを大学教育の中に位置づけて企画・運営する必要がある。そして私たち自身をも大学教育の中に再度位置づけて、大学図書館のサービスを考えなくてはならないのである。



# 小・中規模大学における ラーニング・コモンズ

共愛学園前橋国際大学・准教授，高等教育研究センター

奥田雄一郎

## 日本における大学の規模

わが国には現在約800の大学がある。大学と聞くと数万人の学生たちがいるキャンパスを想像する方も多いかもしれない。しかしながら、実際には我が国における大学の多くは、総学生数5000人以下の小・中規模大学である（Fig.1）。

これまでの事例報告などにおいては、大規模大学における取り組みが中心であったことから、本稿では小・中規模大学におけるラーニング・コモンズという視点を中心とする。

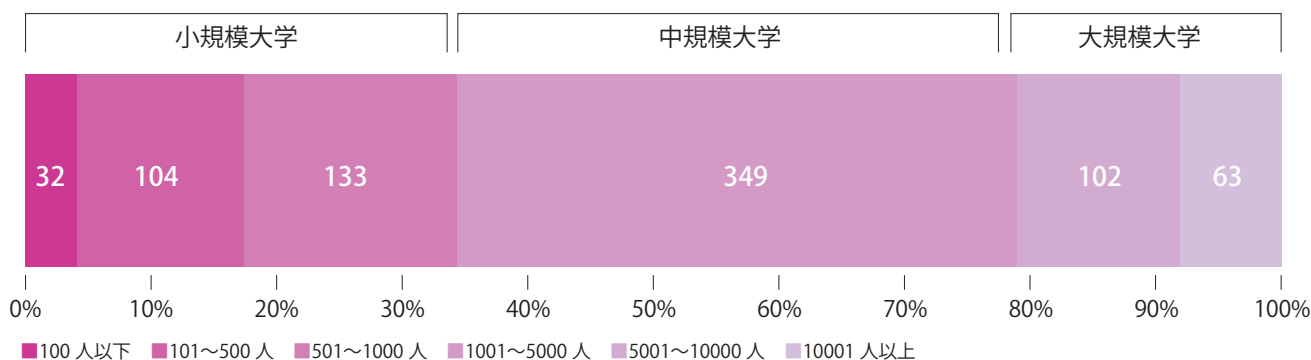


Fig.1 日本における大学の規模（平成24年度 文部科学省：学校基本調査）

## アクティブラーニングとラーニング・コモンズ

「学習から学修へ」（平成24年度 中教審 答申）という転換を受け、大学における学びは現在大きな変化を迎えている。その変化とはインプット・アウトプットを教員主導で行う従来の学びから、インプット・アウトプットを学習主体である学生自身が行う学びへのシフトである。こうした学生主体の学びは総じて「アクティブラーニング」と呼ばれ、アクティブラーニングを促進するための学習環境が「ラーニング・コモンズ」である。

つまり、授業や課題などのインプット、テストやレポートなどのアウトプットを教員が主導する従来の大学教育に対し、現代の大学教育においては学生自身が多様なメディア（論文やインターネットなど）の中で、どのようなメディアからインプットするのかを自ら選択し、得られた情報をどのようなメディア（プレゼンテーション・イベントなど）を通してアウトプットす

るのかを自分で考えることが求められる（Fig.2）。

こうした大学における学びの変化に伴い、従来の大学においては情報収集の過程（インプット）への支援が重視されてきたのに対し、ラーニング・コモンズにおいてはレポートやグループ活動の成果物、プレゼンテーションなど入手した情報から学生が何かを生み出す過程（アウトプット）への支援が求められる。

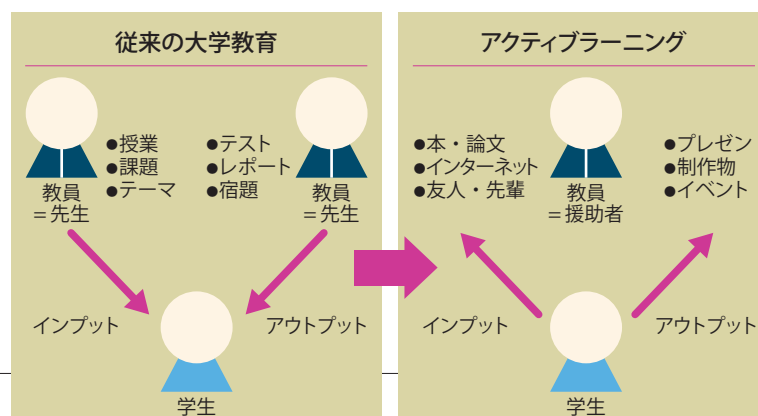


Fig.2 アクティブラーニング：学習者主体のインプット・アウトプット

## 小・中規模大学におけるラーニング・コモンズ

ラーニング・コモンズは大規模大学だけではなく、神田外語大学のSALC (<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/facilities/bldg6/salc/>) や、共愛学園前橋国際大学のKYOAI COMMONS (<http://www.kyoai.ac.jp/4thBld/>) などの小・中規模大学にも導入が進んでいる。大規模大学においては学部単位でのラーニング・コモンズの導入が行われている大学が多い中、特定の学部に限定することなく全学的に導入できることも小・中規模大学の特徴といえよう。

ここでは小・中規模大学のラーニング・コモンズでの学びの例として、著者が担当している社会文化心理学という授業を紹介したい。

### ○授業例：社会文化心理学

社会文化心理学は、「どうしたらKYOAI COMONSがもっと活性化するか」を履修学生たちが議論・プレゼンし、活性化のためのイベントを計画・実行するアクティブラーニング型の授業である。

社会文化心理学の教室は固定されておらず、その回の活動に応じてグループワークエリアやプレゼンルームをフレキシブルに利用する。プレゼンは壁の無いプレゼンルームで行われ、履修学生以外の通りがかった学生や教職員もその様子を目にすることができる (Fig.3,4)。学習支援員や教職員の協力を得ながら、最終的にはイベントの実施まで行う (Fig.5) という、従来の聞くだけの授業とは異なり、常に学生たちが主体的に活動することが求められる。

社会文化心理学の授業の中で、学生同士の衝突や企画が通らないといったトラブルが生じることも多々ある。しかし、そこで生じる様々な問題解決を志向する活動こそが、学生たちの学びの契機となりうるのである。Engeströmは、学びにおける矛盾や葛藤の重要性を示唆している。そうし



Fig.3 グループワーク



Fig.4 プレゼン



Fig.5 イベントの実施

た矛盾や葛藤は通常、現代社会を生きる学生たちにとっては最も接近したくない、厄介なものとして彼らの前に立ち現れる。しかし、Engeströmによれば、そうした矛盾や葛藤こそが新たな学びを創発するのである。

## 小・中規模大学におけるラーニング・コモンズの課題

多くの大学において、ラーニング・コモンズには全ての学生たちが学ぶスペースがあるわけではない。数万の学生が在籍しながらラーニング・コモンズの座席数は多くて数百、あるいは100に満たない大学も多い。また、全学部の学生が利用できるわけではなく特定の学部のみでラーニング・コモンズが導入されている大規模大学もある。そうした意味では、小・中規模大学の方が、用意する座席数・学部間での連携のしやすさなどの点から、ラーニング・コモンズという新たな学習環境を導入しやすいといえよう。

小・中規模大学におけるラーニング・コモンズの課題としては、第一に、多くの小・中規模大学において、ラーニング・コモンズの導入は大学のある部分だけではなく全学規模になるが故に、全教職員にその背景や学びのスタイルの変化といった点をFD / SDを通じてコンセンサスを

得る必要がある。つまり、小・中規模大学にとってラーニング・コモンズの導入はその大学における学びの全体に影響する取り組みともいえよう。また第二に、学生たちにとっても「1人で学ぶ」教室での学びから「みんなで学ぶ」ラーニング・コモンズでの学びへの変化は単純に移行できるものではない。ラーニング・コモンズのガラス張りの共同作業学習環境は、それまでは目にすることのなかった自分の属する集団以外の集団の活動を可視化する。仕切りのない開放的なコミュニケーションスペースは、今まで出会うことのなかった学生同士の新たな出会いを誘発する。教職員によるガイダンスなどの情報提供に加え、ラーニング・コモンズで学ぶ他の学生の姿を観ることが、少しずつ学生たちをラーニング・コモンズでの学びに適応させていくことだろう。



人工芝のグラウンド、京都国際マンガミュージアム

# 大学がリ 東西マンガ

西の

「京都国際マンガミュージアム」

（京都精華大学）

マンガ資料の収集といえば、「国立マンガ喫茶」などと揶揄され、政権交代と共に廃案となってしまった「国立メディア芸術総合センター」構想が記憶に新しいが、マンガやアニメは文化と産業の一翼を担うコンテンツとして、また社会を読み解く学術資料として、着々とその位置付けが高まってきているように見える。国の大規模な施設は出来なかったものの、マンガなどのサブカルチャーに着目し収集・展示・研究をするマンガ図書館的施設は全国に多く、また増加している。作者出身地に由来する小規模なものから、北九州市や広島市、立川市などの大規模なものまで種々あるが、群を抜いて規模・質ともに別格といえるのは「京都国際マンガミュージアム」と「明治大学マンガ図書館」の2施設である。これらはどちらも運営主体が大学であり、他の施設には真似できない学問と紐付いた図書館といえる。今回この大学図書館としてみると異質にも見える2図書館にフォーカスを当ててみた。

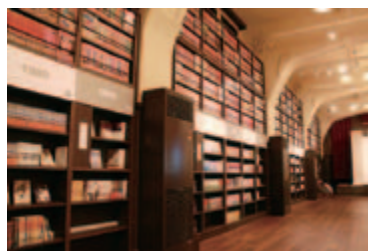
+++++

## 西のリーディングミュージアム

「京都国際マンガミュージアム」は国内初のマンガ文化の総合的拠点として、2006年11月に開館した。現代の国内マンガ本や雑誌を中心に、明治期以降のマンガ関連歴史資料、世界各国の著名マンガ本、その他の関連資料等が世界最大規模の約30万点（2011年現在）ほど収蔵されており、内約5万点が開架提供されている。実際に訪れてみるとJR京都駅から市営地下鉄 烏丸線がわずか3駅6分ほどの市街地のど真ん中、二条城までも歩いて10分強という至便な場所にあることに驚き、その風情のある昭和4年建設の校舎（旧龍池小学校）を使った建物に2度驚く。京都精華大学職員でマンガミュージアム事務局の上田修三さんに案内をしていただいた。

京都精華大学は1973年にマンガクラスを設置、2000年にはマンガ学科設立（2006年マンガ学部設立）と、マンガ教育のリー

ディング大学として2003年4月にマンガ資料の収集・保存を行うミュージアム構想を京都市に提案。地域住民の理解と積極的な協力の下、閉校



館内の壁中に広がる「マンガの壁」

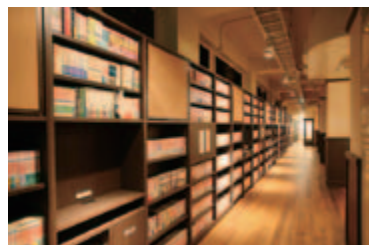
された小学校の跡地を活用し、2006年11月に京都市と京都精華大学の共同事業として開館にたどり着けたとのこと。地域密着のプランニングが

大きな成功のポイントに見える。利用者数は開館から3年9ヶ月で100万を突破し、現在も堅調に年間約25万人で推移しているとのこと。利用料は大人800円だが年間パスポート（大人6,000円、中高生3,600円、小学生1,200円）があり、近隣のリピーターが多いのが特徴だ。

入口から館内に一步入ると、右手には所狭しと様々なマンガやアニメキャラのお土産グッズが陳列されたショップ、左手の受付にはコスプレの麗人がお出迎え（女性です）、普通の図書館気分で訪問すると度肝を抜かれる。以前講堂だったメインギャラリーは壁面いっぱい「マンガの壁」がしつらえてあり、圧倒的な存在感で迫ってくる。また別棟には長い廊下の壁が全て書架になっており、なんともいえないレトロで味のある雰囲気を出している。

本を選び始めて気が付くのだが、ここには閲覧席がほとんど無い、また資料にはICタグもタトルテープも貼られていない。利用者は館内の空きスペースを見つけて思い思いの姿で自由にマンガを読みふけている。極めつけは人工芝が敷かれたグラウンドで、座ったりごろごろしたりしながら読んだり、語りあったりしている。また読むだけではなく体験できるという意味では、実際に商業発刊されるマンガ原稿の下書きやペン入れなど、マンガが出来上がる工程をデモではなくリアルに見せてくれるマンガ工房コーナーや、若手マンガ家さんによる似顔絵コーナーがあったりもする。そして大学として研究施設の顔も持ち、専門員の方が様々な質問に対応して下さる。このようなマンガ好きからマンガ専門家までを満足させる施設のためか利用者層には外国人も多いとのこと。総入館者数のなんと15%が外国人（仏・英・オーストラリアなどが上位勢）との驚きの国際色で、まさにマンガの国際アミューズメントパークの様相を呈している。

マネジメントの特徴の一つは「管理の為の管理は止めよう!」という方針で、このような



長い廊下も全て書架として使用



コスプレの麗人が受付嬢



# ードする 図書館のいま

東  
の

「明治大学マンガ図書館」

(明治大学)

しほりを外した運営で実際に逸失するマンガ本は開館以来1%未満だそう。また受付の麗人から、ショップスタッフまで本当にマンガ好きな職員さんたちが多く、ボランティアさんも含めて良質な支援者に支えられている。経営的には大学広報の側面から大いに寄与しているものの、設立当初に比べ国の補助金額が少なくなり、今後は収支の健全化が課題とのことである。

## 東のリーディングライブラリー

「明治大学マンガ図書館」は「米沢嘉博記念図書館」と「現代マンガ図書館」の2図書館から成り立っており、現在施設としては2箇所に分かれて運営されている。「米沢嘉博記念図書館」は明治大学が2008年4月に国際日本学部を開設し、この分野の研究・教育を推進するタイミングに合わせて2009年10月にマンガとサブカルチャーの専門図書館として開館した。これは明治大学が輩出したマンガ評論家の第一人者であるとともに、毎回約50万人の参加者を数える、「コミックマーケット」という漫画文化の巨大な土壌の発展に尽力したサブカルチャー界の偉人「故 米沢嘉博氏」が遺した貴重で膨大な蔵書の寄贈を受け、これを柱にコミックマーケット準備会などの協力で開設にたどり着いたものだ。所蔵はマンガ雑誌・単行本、同人誌、サブカルチャー雑誌等で十数万冊規模にのぼる。場所は駿河台の明治大学の裏手にあり、本の街「神田神保町」とITとポップカルチャーの街「秋葉原」に挟まれた先端文化研究にはうってつけの場所にある。建物はビジネスビルを改築したものだが、1階は展示室、2階に閲覧室、3～5階が閉架式書庫となっており、閲覧席が設けているところは一般の図書館と同様だ。学外者の利用は18歳以上からで利用期間別の会員費、(1日300円～他)と合わせて閲覧冊数に応じて1冊あたり100ポイント(約100円)を支払う従量制の料金体系である。古い資料の閲覧に関しては会員種別によって一定の制限を設けられており、資料保存に関し配慮がなされている。所蔵資料としては米沢氏の活動に関係して同人誌の所蔵が多いのが特徴で未だ継続して整理が続けられている。同人誌に関しては、直近で開催されたコミックマーケットの見本誌を一定期間閲覧する機会を提供してくれており、他には無い取り組みである。

もう一本の柱「現代マンガ図書館」であるが、新宿区早稲田鶴巻町で貸本業を営まれていた「故 内記稔夫氏」が自らのコレクションを基に私設の「現代マンガ図書館」として1978年に開館したもので、2009年12月に明治大



米沢嘉博記念図書館 2階閲覧室

学に寄贈され、「明治大学現代マンガ図書館」として貸本マンガも含め約18万点の所蔵をもって公開されている。現在では貸本マンガとはイメージがしにくいかもしれないが、まだ日本が貧しかった頃のマンガの供給形態であり、2010年のNHKの朝の連続ドラマで好評であった「ゲゲゲの女房」で紹介された(内記氏はドラマの貸本屋隆盛期の時代考証をご担当)。小さな閲覧スペースであるが、米沢記念図書館同様の会費+冊数に応じた課金という料金体系で一般の利用が可能となっている。歴史を紐解く資料としてマンガ研究家や愛好家を支える貴重なコレクションとなっている。

明治大学は、今後この2館を中心に「マンガ・アニメ・ゲームおよび関連分野の図書、雑誌、同人誌(50万冊規模)」「マンガの原稿、アニメの原画類・セル画・フィルム・アニメのパッケージソフト」「業務用ゲームの筐体・基板」「家庭用ゲーム機およびパッケージソフト」「キャラクター商品類、フィギュア 他」などを収集し、マンガ・アニメ・ゲームおよび関連分野の資料保存、ならびにその学術・文化的運用を目的とした「明治大学国際マンガ図書館(仮称)」計画を発表しており、今後に期待が持たれるところである。

大学がマンガを学術資料として収集管理していくことは賛否が分かれるところかもしれないが、整理基準や保存方法など、学術的知見を有する大学がこれをリードしていくことは、マンガ研究にとって大きな支援となる。またアニメも現代日本固有の先端文化として高く評価されているいま、これを保有し学術研究の対象とする事は、大学の懐の深さを社会にアピールできるトピックとして今後も注目し続けたい。



明治大学現代マンガ図書館



昭和初期のマンガ「のらくろ」

# IAAL大学図書館業務 実務能力認定試験

## 「総合目録 - 図書中級」第3回, 「総合目録 - 雑誌初級」第6回 実施報告

**日時** 2013年5月19日(日)

図書中級14:00-15:30(90分)

雑誌初級14:00-14:50(50分)

**会場** 東京 - 機械振興会館

大阪 - 公益社団法人国民會館

**出題** 図書中級150問, 雑誌初級100問

(図書中級, 雑誌初級ともマークシート方式)

|      | 図書中級 第3回             | 雑誌初級 第6回             |
|------|----------------------|----------------------|
| 応募者数 | 82名<br>(東京51名・大阪31名) | 83名<br>(東京59名・大阪24名) |
| 受験者数 | 81名<br>(東京50名・大阪31名) | 75名<br>(東京54名・大阪21名) |
| 合格者数 | 29名<br>(合格率35.8%)    | 32名<br>(合格率42.7%)    |

### 図書中級 第3回

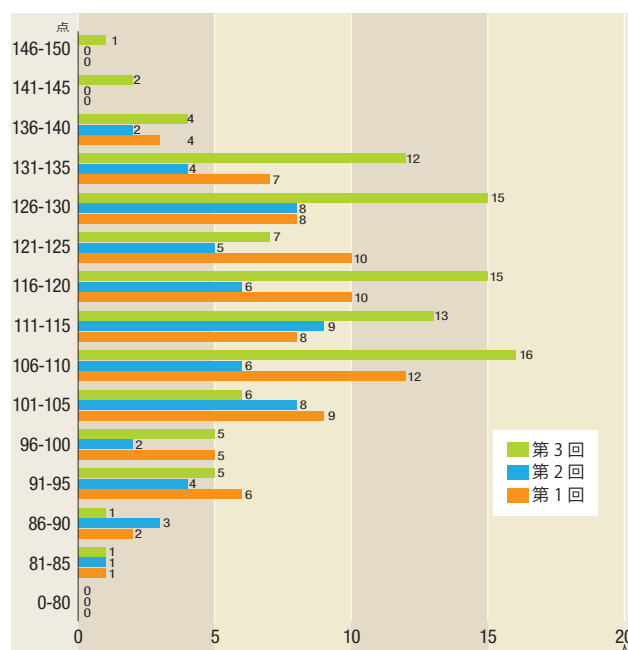
#### ● 全体の得点分布 (第1回-第3回) 合格ライン 120点

図書中級は今回で3回目になります。全体としては、第2回と平均点などほぼ同等の結果となりました。

領域ごとの結果を見ると、「書誌作成・洋図書」と「総合・洋図書」がやや低かったようです。問題数は和図書、洋図書それぞれ計60問が出題されますので、今回も洋図書の差が合否を左右したといえるかも知れません。問題例はニュースレターのNo.10(2012.4)およびNo.8(2011.3)を参照してください。

コーディングマニュアルや目録規則を丸覚えする必要はありませんが、書誌を作成する際、分からないことがあったら、見よう見まねで適当に記述してしまうのではなく、規則にどう定められているかを確認しつつ、日常業務を行っていくことが技術の向上につながる第1歩です。また、洋図書だから難しいと思わず、経験を積み重ねていくことが大切です。

|       | 第1回    | 第2回    | 第3回    |
|-------|--------|--------|--------|
| 最高得点  | 147点   | 137点   | 137点   |
| 平均点   | 117.2点 | 113.4点 | 113.7点 |
| 得点中央点 | 117点   | 114点   | 114点   |
| 標準偏差  | 13.4   | 13.8   | 13.2   |



#### ● 問題の領域別正解率

| 領域          | 第1回   | 第2回   | 第3回   | 問題数 |
|-------------|-------|-------|-------|-----|
| I 目録の基礎     | 78.1% | 88.7% | 84.5% | 30  |
| II 書誌作成・和図書 | 87.9% | 77.0% | 81.8% | 42  |
| III 総合・和図書  | 82.7% | 81.0% | 92.0% | 18  |
| IV 書誌作成・洋図書 | 64.8% | 66.9% | 57.9% | 40  |
| V 総合・洋図書    | 71.9% | 65.5% | 71.2% | 20  |

IAAL 認定試験の「総合目録-図書中級」は、実務に則したスキルがあることを評価する指針です。ハイレベルな内容ですから、得点を糧にステップアップしてゆきましょう。

実際のこの問題で120点をとって合格した方は、素晴らしい実務能力をもっていると言えます。また、90分で150問を解く集中力の持ち主でもあります。合格者名を発表することはいませんが、合格証の発送とともにその栄誉を称えたいと思います。

また、今回もわずかに合格点に足りない方がたくさんいらっしゃいました。再チャレンジされることを期待しています。



## 雑誌初級 第6回

### ● 全体の得点分布 (第1回～第6回) 合格ライン80点

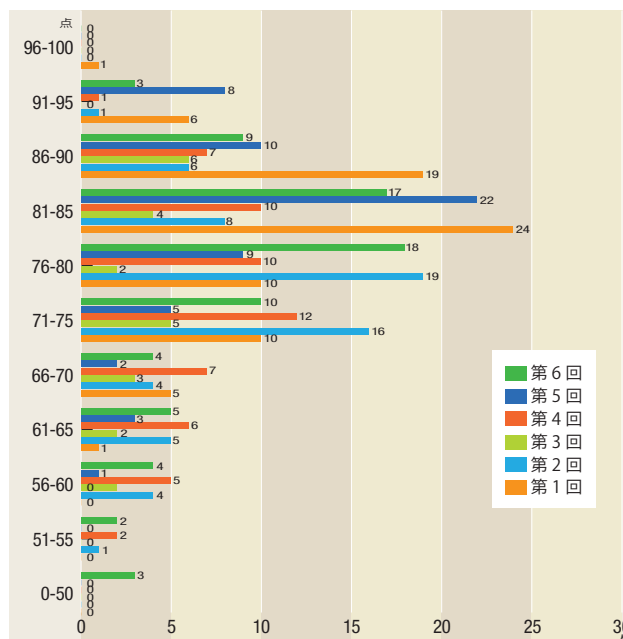
|       | 第1回   | 第2回   | 第3回   | 第4回   | 第5回   | 第6回   |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 最高得点  | 97点   | 91点   | 89点   | 92点   | 93点   | 92点   |
| 平均点   | 82.1点 | 75.4点 | 76.3点 | 73.9点 | 81.5点 | 75.9点 |
| 得点中央点 | 84点   | 76.5点 | 76点   | 75点   | 83点   | 78点   |
| 標準偏差  | 7.07  | 8.61  | 9.39  | 10.0  | 7.87  | 10.89 |

### ● 問題の領域別正答率

雑誌初級の第1回から第6回の結果をグラフに表しました。毎回合格ラインの80点に1～5点足りないために不合格になった方が多く、残念な思いをされたことと思います。

雑誌初級と図書初級の異なるところは、領域Ⅳ所蔵レコードの記入方法です。これまで比較的領域Ⅳの正答率が低い傾向にあったのですが、今回は領域別で最も高い結果でした。問題集発行により事前学習が広まったことがひとつの要因ではないかと思われます。

| 領域               | 第6回   | 問題数 |
|------------------|-------|-----|
| I 総合目録の概要        | 79.3% | 30  |
| II 各レコードの特徴      | 79.3% | 15  |
| III 検索の仕組みと書誌の同定 | 74.3% | 22  |
| IV 所蔵レコードの記入方法   | 81.6% | 13  |
| V 総合             | 66.3% | 20  |



### ● NACSIS-CAT を利用した雑誌目録業務の経験年数 およびその種類

| 雑誌目録業務の経験年数 |           | 業務経験あり      |           | 業務経験なし    |  |
|-------------|-----------|-------------|-----------|-----------|--|
| ① 0～1年      | 50(66.7%) | 所蔵登録または書誌検索 | 52(69.3%) | 23(30.7%) |  |
| ② 2～3年      | 14(18.7%) | 書誌修正        | 16(21.3%) | 59(78.7%) |  |
| ③ 4～9年      | 6(8.0%)   | 書誌流用入力      | 20(26.7%) | 55(73.3%) |  |
| ④ 10～19年    | 5(6.7%)   | 書誌新規入力      | 11(14.7%) | 64(85.3%) |  |
| ⑤ 20年～      | 0         | 雑誌変遷報告      | 5(6.7%)   | 70(93.3%) |  |

雑誌初級はNACSIS-CATの仕組みを理解し、書誌検索から所蔵登録までの業務を正しく行うことが出題の範囲です。出題の範囲です。実際に雑誌の目録業務を経験している人は、図書と比べると絶対数がかなり少ないのではないかと思います。今回で図書・雑誌とも初級の開催が6回になりましたので、累計受験者数を比べてみると、図書は1007名、雑誌は359名でした。また、上の表からも、雑誌初級の受験者の中でも実際に雑誌の目録業務に長く携わっている人が少ないことが分かります。以前は学術雑誌総合目録の全国調査があつて、雑誌所蔵登録業務は大学図書館でよく経験する仕事でしたが、現在は雑誌の経験者は貴重な人材だといえるようです。

『IAAL 大学図書館実務能力認定試験問題集 2012 年版』の刊行により、「総合目録-図書初級」「総合目録-雑誌初級」の模擬問題各100問とその解説が、受験の対策、そして日常業務のヒントなどとして広くご活用いただけたのではないかと思います。しかし、「問題集」の残部は僅かとなっています。そこで、「総合目録-図書初級」「総合目録-雑誌初級」はそのまま、「情報サービス-文献提供」の問題を追加して、新たに樹村房から刊行する予定です。

さて、次の試験は11月10日(日)。科目は「総合目録-図書初級」と「情報サービス-文献提供」です。ふるってお申込みください。

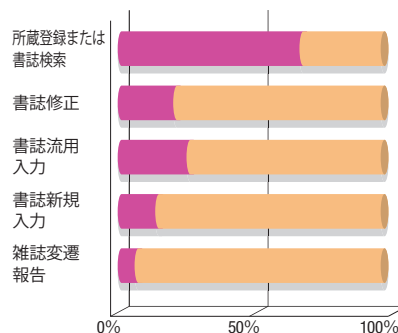
IAALのサイト内に、認定試験専用のページを設けています。認定試験のことについては、こちらのページをご覧ください。

▶ [http://www.iaal.jp/IAAL\\_HPver5/index.html](http://www.iaal.jp/IAAL_HPver5/index.html)

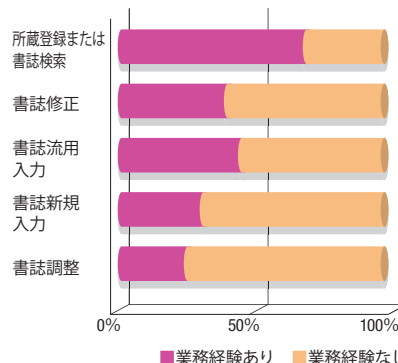
IAAL 認定試験

検索

第6回雑誌初級受験者の業務経験



第6回図書初級受験者の業務経験 (2012.11 実施)



# 地方紙・ブロック紙，専門紙も網羅した 国内最大級の新聞・雑誌イメージデータベース

新聞のデータベースは多くの大学図書館で導入されています。特に全国紙のデータベースは、信頼できる身近な情報源として学生の研究素材や就職活動に広く活用されています。一方で、日本の各産業界を代表する専門紙や全国の各地方紙を媒体として提供するデータベースはまだ導入が進んでおりません。株式会社エレクトロニック・ライブラリーが提供する「ELNET」（イーエルネット）は、専門紙35紙、地方紙48紙を含む新聞約100紙と雑誌約150誌の記事を紙面イメージのまま提供するデータベースとして、全国の大学や公共図書館で導入いただいております。

大学図書館はこれまで、大学の教育研究に関わる学術情報の体系的な収集、蓄積、提供を行うことで、教育研究に対する支援機能を担ってきました。インターネットの普及によって情報収集が手軽になった今日においても、確かで幅広い情報源の提供とレファレンスサービスの重要性は変わることがありません。

そのため、多くの大学図書館で新聞のデータベースが導入されていますが、主に全国紙のみが提供され、専門紙や地方紙を網羅して情報収集をすることは非常に難しいのが現実です。

例えば、学生が論文や研究レポート作成のための資料として新聞から情報を収集する場合、大学図書館で導入した全国紙のデータベースや縮刷版から情報を収集することになります。しかし、同じ事象に対する評価はそれぞれの地方や関連する業界によってさまざまです。専門紙や地方紙からも多面的に情報収集をすることで全国紙から得た情報を補い、論文・研究テーマに合った幅広い情報を得ることができます。

また最近では、学生の就職活動の支援としても新聞のデータベースは見直されています。企業研究の情報源として、日頃手にする機会の少ない専門紙から情報を得られることや、Iターン・Uターン等で地元の企業に就職する場合には、地元紙からの情報収集は欠かせません。

ELNETは専門紙や地方紙を含めて1988年以降の新聞約100紙、雑誌約150誌の記事を蓄積しており、検索した記事を切り抜きイメージのままパソコンやFAXに出力できます。記事を補足する写真やグラフ、イラスト等の図表があることで、記事内容が把握しやすくなることに加え、見出しの大きさや作りを見ることで新聞社がそのニュースの社会的なインパクトについてどのように判断したかがわかります。また、図表にはその出典が明記されている場合が多く、引用された原典を入手するための情報を得ることもできます。

ELNETは検索のための機能も充実しています。検索ナビ機能により、をクリック一つでどんどん検索結果を絞り込むことができ、写真・図表が付いた記事や記事見出しの大きさで限定するなど、記事イメージ特有の検索もできるようになっています。

ELNETを利用することで、多くの新聞を一括検索し、

その記事イメージを迅速に入手できるため、レファレンスサービスのツールとしてもご満足いただけると確信しております。この機会に、専門紙や地方紙のデータベースを大学図書館の情報提供に加えることをお勧めします。



## 【サービス画面】

### ①検索ナビ

媒体や発行年、記事形式（連載、社説、コラム等）を簡単に絞り込むことができます。

### ②サムネール一覧

検索結果をサムネール形式（縮小イメージ）で閲覧することができます。

## 【記事原文表示】

記事を切り抜きイメージで閲覧できます。また、記事原文イメージをPDF表示、プリントアウト、FAX出力することができます。



## 株式会社エレクトロニック・ライブラリー

新聞・通信・出版各社発行の新聞記事を横断的に取り扱うデータベース事業会社として、1986年12月8日、電通、朝日新聞社、読売新聞社、NTTほか多数の株主の出資を得て設立されました。

お問い合わせ

担当部署：第2営業部  
担当者名：ELNET図書館担当  
TEL：03-3779-1211  
<http://www.elnet.co.jp>

今回は、ドイツ語の資料について目録を採る際に注意すべき点をまとめてみましょう。

まず気を付けなければならないのは、ドイツ語では固有名詞だけではなく、普通名詞も先頭を大文字で書き表すということです。タイトルページにすべて大文字で表示されている場合、書誌レコードとして記入する際に大文字・小文字を直すにあたっては注意が必要です。

ドイツ語で使用されるアクセント符号は「¨」（ウムラウト）です。

初期には「e」の文字で表現していたこともあって、ゴシック体（いわゆるヒゲ文字）や、タイプライターでウムラウトを打てないときなどに、変音する母音の直後に「e」を付けて表記する事がありました。例えば、「ö」を「oe」とするなどです。そのため遡及データなどでウムラウトの代わりに「e」を付けて入力されているデータもあります。NACSIS-CATを検索するときには「ö」は「o」でヒットしますが、「oe」は「oe」でないとヒットしませんから、検索の際は「e」が付いているかもしれない、ということも考慮しましょう。

単語が長い、というのも特徴の一つです。

日本語の熟語のように、複数の単語を続けて一つの単語にする事が多いので、長い単語が多くなります。この場合、品詞は最後にある単語のものになりますので、名詞かどうかを判断するには最後にある単語の品詞を確認すれば良いことになります。

略語を使用する場合、このような複合語については最後の部分に略語を適用します。例えば、「Text」と「Ausgabe」の複合語である「Textausgabe」という単語はこのままでは略語表には載っていないのですが、「Ausgabe」は「Ausg.」と略しますので、「Textausgabe」も「Textausgb.」と略することになります。

ドイツ語の綴りの正書法は、比較的最近、1998年に改正されています。かなり大掛かりな綴りの変更がありました。そのため、辞書を調べる際にはその記述対象資料が準拠している正書法にあった辞書を使用しないと、調べたい綴りでは見出し語として載っていないということになります。しかもこの改正は、出版社や文学者などを中心にかなり根強い反発があったため、一斉に切り替わったわけではなく、かなり長い期間にわたって新旧の正書法が並存していました。そのため、1998年以降に出版されたものだからといって必ずしも現行の新正書法に準拠しているとは限りません。この時期の資料を整理することが多いようでしたら、あらかじめ新旧の正書法について確認しておいた方が良いでしょう。（次号に続く）



## IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験 (IAAL 認定試験)

2013 年 11月10日 (日)



- ▶「総合目録-図書初級」第7回
- ▶「情報サービス-文献提供」第2回

- ① 東京会場 (機械振興会館)
- ② 名古屋会場 (ウインク愛知)
- ③ 北九州会場 (九州女子大学・九州女子短期大学)

【申込期間】9月10日 (火) ~ 10月18日 (金)



2014年版

## IAAL 大学図書館業務 実務能力認定試験問題集

— 専門的図書館員をめざす人へ —

■ 価格 1900円 ■ 判型 B5判

### RDA講習会

福岡, 大阪, 札幌, 京都でRDA講習会を開催します。既に終了している回もありますが, 席に空きがある場合は受講することが可能です。詳細は当機構HPをご確認ください。

<http://www.iaal.jp/rda/index.html>

#### ■ RDA講習会in 福岡 (主催: 丸善株式会社, 共催: IAAL)

- 第1回 9月7日 (土) 13:00 ~ 16:00 終了
- 第2回 10月5日 (土) 13:00 ~ 16:00
- 【会場】JR博多駅ビル 9F, JR博多シティ会議室3

#### ■ RDA講習会in 札幌 (主催: 丸善株式会社, 共催: IAAL)

- 9月14日 (土) 10:00 ~ 16:00 終了
- 【会場】札幌駅前アスティ 45ビル

#### ■ RDA講習会in 大阪 (主催: 丸善株式会社, 共催: IAAL)

- 第1回 9月28日 (土) 13:30 ~ 16:30 終了
- 第2回 10月19日 (土) 13:30 ~ 16:30
- 【会場】新大阪丸ビル・新館 509号室

#### ■ RDA講習会in 京都 (主催: 大学図書館問題研究会京都支部, 共催: IAAL)

- 第1回 2014年2月22日 (土) 13:30 ~ 16:30
- 第2回 2014年3月9日 (日) 13:30 ~ 16:30
- 【会場】京都市国際交流会館 第1・2会議室

### > COVER story



共愛学園前橋国際大学の  
KYOA COMMONS

### 八洲学園大学公開講座

大学図書館業務の基礎知識 - IAAL 認定試験総合目録初級受験対策講座 - 開催しました!

講師: 伊澤 和夏

受験者の皆様よりIAAL 認定試験対策講座開催のご意見をいただいていたましたが, 右の日程でIAAL 認定試験の対策講座を八洲学園大学公開講座で開催しました。インターネットによるライブ配信受講, オンデマンド (録画) 受講, 来校受講という3通りの受講方法が可能です。公開講座なので希望する方は誰でも受講できます。今後も他科目で講座の開校を予定しています。

日程と内容

|   | 日程             | 時間              | 内容                                       |
|---|----------------|-----------------|------------------------------------------|
| 1 | 2013年<br>8月31日 | 14:40-<br>16:10 | [NACSIS-CAT概説]<br>「総合目録-図書初級」問題の解説①      |
| 2 | 2013年<br>9月07日 | 14:40-<br>16:10 | [NACSIS-CATの検索の仕組み]<br>「総合目録-図書初級」問題の解説② |
| 3 | 2013年<br>9月14日 | 14:40-<br>16:10 | [情報源の見方と総合問題]<br>「総合目録-図書初級」問題の解説③       |
| 4 | 2013年<br>9月21日 | 14:40-<br>16:10 | 「総合目録-雑誌初級」<br>問題の解説 (雑誌所蔵登録と総合問題を中心に)   |